

## 2025年度 探究型カリキュラム各授業学習目標・授業目標 科目名：2年探教育探究

高等部教育目標
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う
探究型カリキュラム教育/学習目標
Mastery for Service を体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける
探究型カリキュラムにおける5つの学びの方針 Five Principles for Learning
1. 自分事として      2. 社会/実践を通して      3. 知識を大事に      4. コミュニケーションを通して      5. 生徒・教員が共に <オーナーシップ/一人称>   <PBL型/アクション>   <自ら得る知識/高める関心>   <自分/他者のやりとり>   <共に探究する関係性>
上位学習目標
<b>【知識・技能】</b> ・自分が関心のある教育の課題について、自分の言葉で説明することができる ・先行研究、先行事例の分析を踏まえて、フィールドワークを実施して調査することができる <b>【思考力・判断力・表現力】</b> ・自分が関心のある教育に関する課題について他者に自らの意見を伝える事ができる ・自分が関心のある教育に関する課題について調べ、その解決方法を考案することができる <b>【学びに向かう力・人間性】</b> ・主体性をもって、粘り強く学習課題に取り組もうとしている。 ・教育に関する課題を自分事とし、その課題解決を通じて社会に参画・貢献しようとしている。
下位学習目標
<b>【知識・技能】</b> ① 自分が関心のある教育の課題について、独自性のあるリサーチクエストを設定することができる ② 教育の課題解決に取り組んでいる団体、研究者を訪れてフィールドワークを実施することができる ③ データや資料を適切に使って、効果的なプレゼンテーションを行うことができる <b>【思考力・判断力・表現力】</b> ① 教育に関する社会課題について、他者に自らの意見を伝えることができる ② 教育に関する社会課題について調べ、その解決方法を提示することができる <b>【学びに向かう力・人間性】</b> ① 教育に関する社会課題の中から、自分自身がより理解を深め、課題解決をしたいと思うことができるものを見つけようとしている ② 教育に関する社会課題と向き合う中で、その課題に取り組むことの意義を自分のあり方・生き方と関連付けようとしている

授業日	4/15(火)	1 学期授業回数	1 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・なぜ探究学習を行うかを考える。 ・問いの「観点」と「規模」を変えてよりよい問いを作ることができる。		
時間 授業内容	5 限  6 限 (0~35 分) (30~37 分) (37~42 分) (42~45 分)	合同オリエンテーション (西室先生)  探究学習 (水平的学習) を通して大学、社会、人生につながる学びをする。 問いづくりとして以下の 2 点を意識して問いづくりをする。 ①問いの観点を変える。 具体例：疑問詞「なぜ？」・「もし～？」「どのように？」を変える。 ②問いの規模を変える。 具体例：問いの主語を変えたり限定したりする。修飾語を変える。 WORK ① 「ICT の進化は高校生の学習にどのような影響を与えたか？」という問いの観点や規模を変える。 →グループ内でメンバーの考えた問いを共有する。 WORK ② ベネッセ「大学生の学習・生活実態調査」の 8 つアンケート結果 (単位は生徒の興味関心で取得すべきか否か、大学での学習は授業形式をとるべきか否かなど) をみて、そこから自分なりの問いをつくる。	
評価方法	本授業のオリエンテーションのため、評価なし。		
宿題指示	ベネッセ「だい大学生の学習・生活実態調査」の結果から 5 つの問いを作る。		

授業日	4/22(火)	1 学期授業回数	2 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・「教育」探究の課題設定をする上で、ある程度の知識が必要であるため、関西学院大学教育学部教育学研究科の泉恵美子先生をお招きして、教育基本法や学校教育法などの学校教育制度の根幹の定めに関する日本の法律を学び、VUCA、デジタル時代に求められる資質・能力を英語教育学から考える。また、未来の教育を考え、自分の興味・関心に沿った問いを立てられるようにする。		
時間 授業内容	(0~35 分)	〈第 1 部〉 ①教育とは何か？→教育とは「人が人を育てる営み」であり、教育を学ぶことで、自分の学びや他社との関わりを見直す視点が得られる。 教育基本法は「どんな人間を育てるか」という国家の教育理念を示しており、目的は「人格の完成」、目標は「社会の中で主体的に生き、他者と協働できる力を育むこと」にある。 ②教育学とは？→教育に関する営みを多角的に分析し、問い直す学問。主な分野に教育哲学、教育史、教育心理学、教育社会学がある。 ③世界の教育の比較 例：日本は、義務教育 9 年 (小中) 高校・大学進学率が高い。教育観は協調・礼儀・均一性を重視する。主な課題に詰め込み型が残る傾向、自己肯定感が低い。 アメリカは、教育制度は義務教育 9 年 + 高校・大学。教育観は多様性を尊重、自己表現批判的	

	(35~45 分)	<p>思考を重視する。主な課題に教育格差が大きく、学費の高い。</p> <p>④あなたの理想の学校を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あなたの学校理念や目標は？どんな生徒を育てたい？</li> <li>・どんな授業・学び方がある？テストや評価は？</li> <li>・校則はある？どんなルール？</li> <li>・先生と生徒の関係は？その学校のユニークな特徴は？</li> </ul> <p>→上記の質問の自分なりの答えを書きだし、グループ内で共有する。</p>
	(45~90 分)	<p>〈第2部〉</p> <p>①VUCA、デジタル時代に求められる資質・能力とは？</p> <p>2 1世紀型能力とOECDのEducation2030、Well-being と agency、学習指導要領で求める力、GIGAスクール構想で一人一台端末、個別最適な学びと協働的な学びを考える。</p> <p>②やる気と自己肯定感、自律（汎用的なスキル）の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非認知能力とは何か？→「新たな価値を創造する力」「対立やジレンマに対処する力」「責任ある行動をとる力」。また、批判的思考力や創造性を持ち、協働して学習に取り組むなど。</li> <li>・「学びに向かう力」「主体的に学習に取り組む態度」に関する理論</li> </ul> <p>→ARCS（注意・関連性・自信・満足感）動機づけモデル、内発的動機と自己決定理論などの提示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己調整学習の3段階</li> </ul> <p>→予見段階、遂行統制段階、自己内省段階</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自律的な学びを育てる Social Emotional Learning</li> </ul> <p>→社会性と情動の学習(CASEL)</p>
評価方法	宿題の文章内容から評価する	
宿題指示	Classi で 200 字の授業の感想を書くこと	

授業日	4/30(木)	1 学期授業回数	3 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	<p>主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】</p> <p>本時の具体的な目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会課題 1（高校での文理選択は早すぎるか？）について、情報を収集し、事実・データと論拠を整理することができる。</li> </ul>		
時間 授業内容	5 限 0~5 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2 回目（泉先生の特別授業）の振り返り</li> <li>宿題（Classi で 200 字の授業感想）を全員分読み、各班ごとに 1 人 30 秒間の意見交換</li> </ul>	
	5~12 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ The 7Cs の話</li> <li>批判的思考力、創造性、協働性、メディアの使用能力、PC や ICT のリテラシー、異文化理解</li> <li>見通しをもってキャリア形成をしていく能力</li> </ul>	
	12~38 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループワーク</li> <li>① 1 回目の宿題で立てた問いを他者が問いの観点や規模を変えてもらい、さらにその変えてもらった問いを再度自分なりに変えてよい問いを作る。</li> </ul>	
	38~45 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>② 教員がランダムで生徒を当て、①の活動で問いがどう変化したのかを共有する。</li> </ul>	
	6 限		

	0~10分	・ 5限目の最後の活動のグループワークの②を再度行う。
	10~20分	・ 探究学習の4つのステップ（①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現）の再確認 ・ 関西学院高等部の生徒ハンドブックの文系・理系のカリキュラムポイントを読んで、問いを立てる。（なぜ文系が7クラスで理系が2クラスなのか？なぜ文系について深く言及されていないのか？）
	20~30分	・ 教科書(P.68)の問い（なぜ文系 or 理系を選択するときの決め手は何か？）を考える。 →グループ内で回答の共有をする。
	30~40分	・ 対話型論証モデル・三角ロジックの説明をする。 →対話型論証（①問題、②主張、③事実・データ、④論拠、⑤対立意見、⑥反駁）の構成を学び、三角ロジックの主張、事実、理由づけの3点を区別し、意識して考えることを知る。
	40~45分	・ 対話型論証モデルにて、リサーチクエスト「高校1年生の終わりに文理選択をすることは適切なのだろうか？」に設定し、主張を適切であるか否かで別れる。
評価方法	対話型論証モデルの作成（4回目の授業内容）を踏まえて評価を行う。	
宿題指示	なし	

授業日	5/13(火)	1 学期授業回数	4 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・ 社会問題に対する多様な主張とその根拠を整理することができる。		
時間 授業内容	5 限 0~5 分	アンケート Q.できる限り他のテーマや他の授業の内容と関連させようとする Q.自分でテーマを考え抜かずに、教えられたことをただ受け取る Q.自分がすでに知っていることと結びつけて、授業内容を理解しようとする。 Q.よりよいやり方を考えずに、ただなんとなく学習してしまうことがよくある。 Q.私は、授業内容の意味を自分で理解しようとする。 Q.自分がどこにむかっているのかわからなくても、かたちだけで勉強を済ませる。 Q.様々な見方を考慮して、問題の背後にあることを理解することが、私にとって重要だ。 Q.授業内容を理解するのが難しかった。 など（計16問）	
	5~15 分	部活動の地域移行の新聞記事を読む。	
	15~17 分	グループに分かれて、1人30秒ずつ記事について自分の意見を共有する。	
	17~40 分	生徒に部活動の地域移行についての賛否とその理由を聞き、その意見に対して本当にその意見が妥当かどうか突っ込みを入れる。	
	40~45 分	文理選択をめぐる対話型論証 資料A（分離に関する日本と海外の比較）を読んで、自分の賛否の事実・データを拾い上げる。 例：反対：海外では日本のように文系、理系の断絶が深くないという事実がある。	

	6限 0~30分 30~45分	<p>文理選択をめぐる対話型論証</p> <p>資料A（分離訳に関する日本と海外の比較）、資料B（文系的、理系的素養の重要性）を読んで、自分の賛否の事実・データを拾い上げる。</p> <p>その事実・データに論拠・理由付けをする。</p> <p>例：反対：日本では、大学受験の時に文系、理系というアイデンティティをもってしまう。 →論拠：大学入試が自己のイメージに縛られてしまうから。</p> <p>文理選択（逆意見）をめぐる対話型論証</p> <p>資料C（高校生の文理・学科選択に影響を及ぼす要因の分析）を読んで、逆意見の事実・データの収集と論拠・理由づけを行う。</p> <p>例：賛成：成績が良い科目で文理を選んでいる。 →論拠：特異な科目をより深めたり伸ばしたりできる。</p>
評価方法	事実・データに対する論拠の妥当性	
宿題指示	なし	

授業日	5/27(火)	1学期授業回数	5回目 / 全9回
本時 学習目標	<p>主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】</p> <p>本時の具体的な目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会課題1（高校での文理選択は早すぎるか？）について、多角的に試行し、主張をまとめることができる。</li> </ul>		
時間 授業内容	5限 0~5分 5~10分 10~15分 15~22分 22~45分 6限 0~5分 5~15分 15~40分 40~45分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回までの振り返り 資料C（高校生の文理・学科選択に影響を及ぼす要因の分析）を読んで、事実・データの収集と論拠・理由付けを行う。</li> <li>・資料D（大学入学後の文理の枠を超えた学びについて）を生徒が音読をして、三角ロジックを考える。</li> <li>・資料Dの事実・データの収集と論拠・理由付けを行う。</li> <li>・グループワークで資料Dの内容を発表する。 (ex.学問分野でそれぞれの特色があるから、早々と文理選択をする事に反対)</li> <li>・トミダススクールの使い方と文理選択の時期が妥当かどうかを高校生2人（賛成意見と反対意見の両方）の記事を読み、事実データの収集と論拠、理由づけを行う。</li> <li>・質的データと量的データの説明 質的データ：種類の違いや属性を表すデータ 量的データ：数量の大きさを表すデータ</li> <li>・CINIとGoogleSholorでの使用方法の説明</li> <li>・CINIとGoogleSholorを使って、社会課題1（高校での文理選択は早すぎるか？）の適切かどうかの事実データとなる資料を検索して収集して論拠、理由づけを行う。</li> <li>・生徒の主張に対する事実データとなる資料を検索して収集して論拠、理由づけを全員で共有する。</li> </ul>	
評価方法	事実・データに対する論拠の妥当性		
宿題指示	特になし		

授業日	6/3(火)	1 学期授業回数	6 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・教育に関する社会課題に対する多様な主張とその根拠を整理することができる。		
時間 授業内容	5 限目 0～16 分	本柳とみこさんの新聞記事「クラスの役割 海外の学校では？」を音読して、自分の意見と文章から問いを立てる。	
	16～26 分	班ごとに、自分の意見と考えた問いを共有する。	
	26～36 分	教科書「日本の教育はダメじゃない」の通説 1～1 4 を読んでみて、1 番興味のある通説を選択する。	
	36～45 分	対話型論証モデル、情報記録カード（先行研究から得た事実・データと対立する主張・異なる主張に関する事実データ）の説明	
	6 限目	生徒が選択した通説ごとに分かれて班をつくり、通説を分担して読み込む。そして 1 つの対話型論証モデルのパワーポイントを共有して主張と対立する主張の両側の事実・データ、論拠・理由付け、反駁、結論・提言を考える。	
評価方法	先行研究の分析の妥当性		
宿題指示	各通説の対話型論証モデルのパワーポイントのスライド		

授業日	6/10(火)	1 学期授業回数	7 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・「学力は本当に低いのか」というテーマに対する 14 個ある通説の中から選択した通説を読み、先行研究の情報を整理・分析したうえで、インタビュー調査の項目を決めることができる。		
時間 授業内容	5 限目 0～8 分	「暴れる自動、教室に設置されたカメラ」という題の朝日新聞の記事を音読して、賛成か反対かを選択して三角ロジックに会わせて事実・データ、論拠を考える。その後、グループワークをして考えの共有をする。	
	8～45 分	前回の授業で通説の情報を対話型論証モデルのまとめたので、その補足としてそれぞれの主張の他の先行研究を調査して情報カードに書いていく。	
	6 限目 0～45 分	質的調査の手法を学び、各班でインタビューガイドを作成する。 (直接的・間接的な質問、異なる視点からの質問、核となる質問)	
評価方法	インタビューをする際の質問内容の的確性		
宿題指示	インタビューガイド		

授業日	6/17(火)	1 学期授業回数	8 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・「学力は本当に低いのか」というテーマに対する 14 個ある通説の中から選択した通説を選択して、インタビューに適切に質問し、情報をさらに深掘りすることができる。		
時間 授業内容	5 限目 0~35 分	・担当する通説における主張(claim)、事実・データ(date)、論拠(warrant)を対話型論証モデルに沿って説明する。 ・質疑応答を行う。	
	8~45 分	・インタビューガイドを完成させる。	
	6 限目 0~40 分	「日本の教育はダメじゃない」の著者である小松光さんにインタビューをする。	
	40~45 分	今日の授業（インタビュー）で印象に残ったこと、考えたことをまとめる。	
評価方法	インタビューをする際の質問内容の的確性		
宿題指示	今日のインタビューで印象に残ったこと、考えたことをロイロノートに提出 （※当事者・関係者の方の生の声を聴いて、リサーチクエスト（探究上の問い）に関して、どのように考えが深まったかを中心に書くこと。）		

授業日	6/24(火)	1 学期授業回数	9 回目 / 全 9 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・「学力は本当に低いのか」というテーマに対する 14 個ある通説の中から選択した通説で、多様な主張とその根拠を整理することができる。		
時間 授業内容	5 限目 0~30 分	・「朝日新聞」のいまだきの運動会という記事を読んで、小学校の運動会の徒競走に順位が必要か否かというお題で主張(claim)、事実・データ(date)、論拠(warrant)を対話型論証モデルに沿って考える。その後、グループワークを行ってクラス全体で考えの共有を行う。	
	30~45 分	・「日本の教育はダメじゃない」の著者である小松光さんにインタビューした内容と自分たちの主張と対立する主張の事実・データを「Google Scholar」と「CINI」を利用して調べて論拠・理由づけを考えて対話型論証モデルに追記する。	
	6 限目 0~25 分		
	25~45 分	完成した対話型論証モデルを班ごとに発表する。	
評価方法	対立する主張の情報収集の適切さ		
宿題指示	教育に関連する、興味・関心がある話題を、ロイロカードにまとめ、提出する。 ※必ず出典を記すこと。（参考文献の書き方はテキスト P133 を参照すること）		